# 地域医療を支える最前線の現状

少子高齢化が深刻化する中で、医師の不足や高齢化が問題視される一方、医療に求められるものは多様化し、地域医療を取り巻く環境はとても厳しい状況です。その中で、地域医療を最前線で支え、懸命に私たちの命を守っている医療従事者の皆さんに、医療現場の実情や変化、思いなどを聞きました。

近年、働き方改革が提唱され、時間外労働の上限時間が「月45時間・年360時間」に規定。特別な事情の場合も「年720時間」「複数月平均80時間以内・単月100時間未満」に上限が設定されました。

その中で、適用猶予・除外とされた業務のひとつが医師。一般医師は、残業時間の上限を年960時間までに規制されました。その上で、地域医療を担う病院の医師や研修医については「年1860時間」まで容認。このことからも、医療の現場の厳しい労働状況がうかがえます。

全国の医師の、約1割が年1900時間以上残業しているという実態。今も昔も医療現場は、医療スタッフの粉骨砕身の働きによって成り立っています。

**下沖 裕太郎**さん

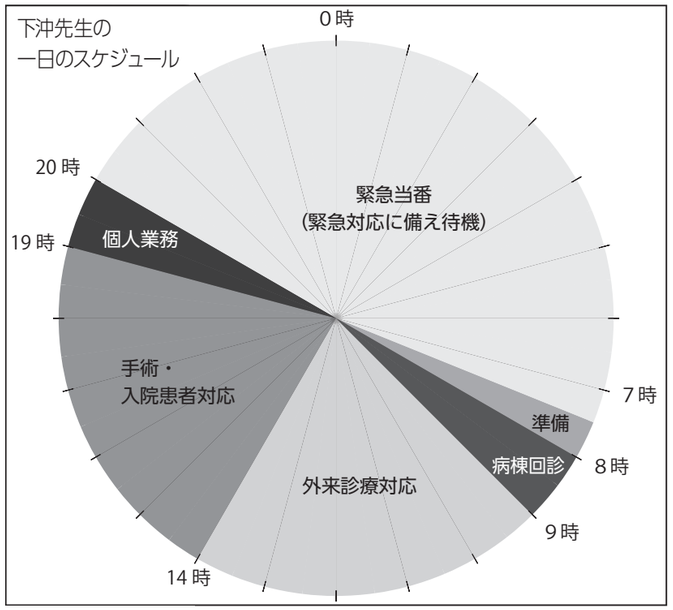
・岩手県立久慈病院
整形外科医師

## 医師の1日

7時30分には病院に出勤し、仕事の準備やカルテを確認。整形外科の場合は8時に集合し、病棟を回診して患者さんの容体を診ます。9時に外来が始まり、日によって人数は違いますが、診察が終わるのは大体14時くらいになることが多いです。午後は手術があるので、人によっては外来を抜けて対応します。手術は毎日2～3件。長時間のものは少ないので、長くても1件は2～4時間くらいで終了します。手術が終わると、午後の病棟業務を行い、その後デスクワークなど各々の業務がある場合は、それを終わらせ帰宅となります。

夜間や休日に病院で待機し、救急対応を行う日当直は、月4回ほど。救急時に日当直での対応が難しい場合に、連絡を受け治療を行う当番は、年齢や科によって違いますが、私は月18日～20日ほど担当しています。夜間は週に4～5件、休日は1日に2～3件呼び出しがあるので、いつでも駆けつけられるようにしています。

手術室での様子



患者さんを診察する下沖先生

## 他医療圏との違い

以前勤務していた胆沢病院は、近くに奥州病院、水沢病院といった総合病院があり、個人病院も整形外科だけで奥州市内に6施設ほどあります。アクセスも良いので、一関市や中部病院にも移動できるので、選択肢が多く、後方支援が充実しています。胆沢病院では主に手術を担当し、個人病院では診察やリハビリなどを担当してもらう、分業ができました。

久慈医療圏は、大きな医療機関が当院しかなく、個人病院も少ない地域です。外来や自宅・施設退院まで当院で診る必要があるため、患者さんも医療スタッフも負担が掛かってきてしまうのかなと思います。

## 病院の使い分け

皆さんの医療への理解も高まり、以前と比べると、コンビニ受診といわれるような受診は減ってきていると聞いています。予防接種や湿布をもらうなど、開業医さんで完結するようなものは、待ち時間も短縮できるので、うまく使い分けてもらえるとありがたいです。当院に来る場合も、診療時間内に来ていただければ、お互いスムーズに診察できるので、ご協力をお願いします。

## 医師としての心掛け

患者さんの検査結果や画像、病気の症状を診るだけでなく、環境や状況など背景を含めて、その人全体を診るように心掛け、一人一人に寄り添うように努力しています。どの医師も、医師不足という現状を踏まえ、自分の科以外は診ませんという対応ではなく、患者さんに不利益がない範囲で、総合的に診察できるように努め、やれることはやるようにしています。

毎日お待たせする時間が長くなってしまい、大変申し訳ありません。なにか困ったことがあれば、出来る限り対応しますので、遠慮なさらず、来院してください。